

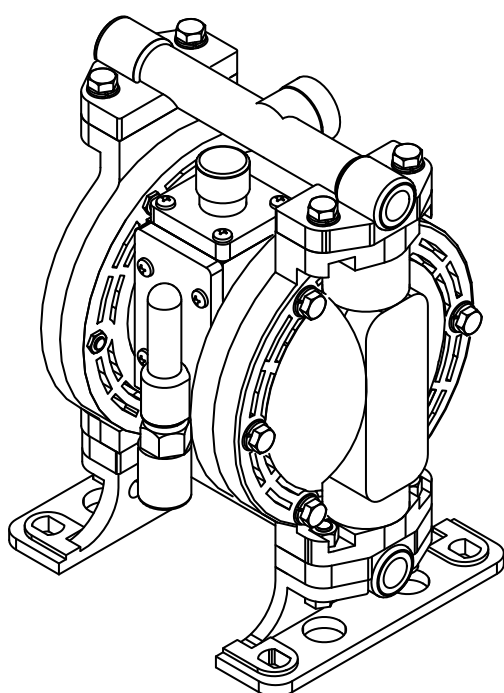


ダイナフローズラリーポンプ

K2 PF

取扱説明書

保管用



対応機種

K2-P K2-F

もくじ

この度は弊社のポンプ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

・この製品を安全に正しくご使用いただくために、製品をお使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり、十分にご理解ください。

・この取扱説明書は、ご利用の方がいつでも見られるように必ず保管してください。

- 2 安全上の注意
- 3 ポンプの作動原理
- 4 ポンプの保守・点検方法
- 5 故障かな？と思ったら
- 6 ポンプの仕様
- 7 外形寸法図・性能曲線
- 9 部品分解図
- 11 製品についての連絡先

■ 一般注意事項

- ・ポンプの吸入・吐出口はホースまたはフレキシブルチューブなどを使用し、ポンプの振動が配管に伝わらないようにしてください。
- ・エア源からポンプへのエア供給には、三点セット（レギュレーター・オイラー・フィルター）を必ず取り付け、ポンプ駆動部への潤滑、エア調節などを確保してください。
- ・ポンプのエア供給は、ポンプ仕様の数値範囲内で圧力を調整、設置してください。
- ・液体がポンプあるいはホース内を流れる時に、静電気が発生しスパークを起こすことがありますので、ポンプあるいは周辺機器に必ずアースを取り付けてください。

■ ご使用上のご注意

- ・ポンプのエア供給用ホースは通常、消費される必要エア量の 25% 増しのエアが通過できるように配管およびホースの選定をして下さい。
- ・性能曲線で示される空気消費量はポンプが瞬間的に消費する空気量を示しています。概算で吐出量の約 4 倍のエアが必要となります。
- ・吐出口ホースの配管は、吐出口の径と同等もしくはそれ以上のものをご使用ください。内径が細くなりますと、吐出量は吸入量に追いつかず、十分な性能が得られません。同様に吸入口の径が極端に細かったり太かった場合、ポンプが空転する恐れがあります。
- ・液に摩擦性の高いスラリー、固形物あるいは異物の混入がある場合、吸入口前にフィルターの設置をして下さい。

■ ポンプ取り付け上のご注意

- ・ホースの脈動を防ぐため、末端の固定を確認してからご使用ください。
- ・圧力がかかったままポンプを持ち上げたり移動させないでください。
- ・有害な液体を取り扱う場合、有毒ガスまたは機体の吸い込みを防ぐためにマスクや目の保護用ゴーグルを着用して下さい。
- ・冬季や寒冷地では排出される圧縮エアによって排気口周りが凍結する場合があります。対応策として、切替部を温水または赤外線ランプ等で温める方法があります。

■ ポンプ運転上のご注意

- ・エア供給バルブはゆっくり開け、ポンプの動きが均一になる点で、エア圧力をセットして下さい。一気にバルブを開けますと急激にエアが流れ込み、ダイヤフラムが破損する恐れがあります。
- ・吸入・吐出の作動はそれぞれのバルブの開閉で試験するとともに、パイプ接続部からの液漏れがないか確認して下さい。
- ・ポンプは出荷前に作動検査を行っていますが、ガスケットは応力緩和することがありますので、万が一ガスケットからの漏れがある場合はボルトを増締めして下さい。
- ・機密テストは、ダイヤフラムの損傷の原因となりますので行わないでください。耐圧テストが必要な場合は必ず通常運転状態で水または使用液でテストして下さい。

■ ポンプの始動と圧力の調整

- ・ポンプ空気圧は取扱説明書に記載の圧力以上にしないでください。
K2 型の場合は 0.1 ～ 0.3MPa の範囲で使用して下さい。
- ・エア源からエアホース等で減圧弁に接続して下さい。
(レギュレーターが付いている時は規定の圧力にセットします。)
- ・ドライ運転及び初めて液を吸い上げる時は、エアは 0.1MPa で作動して下さい。
0.15 ～ 0.2MPa で作動させて止まった場合は、減圧弁のバルブを
止め(コック下向き)復歸バルブを約 5 秒押して下さい。エアを 0.1MPa に下げて、
バルブを開く(コック横向き)と動き出します。
- ・ポンプが液を吸い上げ始め吐出口より出た後は、使用上最適なエア圧で使用して下さい。
(0.2 ～ 0.25MPa) その後のエアの切替、吐出の切替で止まった時は、復歸バルブを押すと
動きだします。

ポンプの作動原理

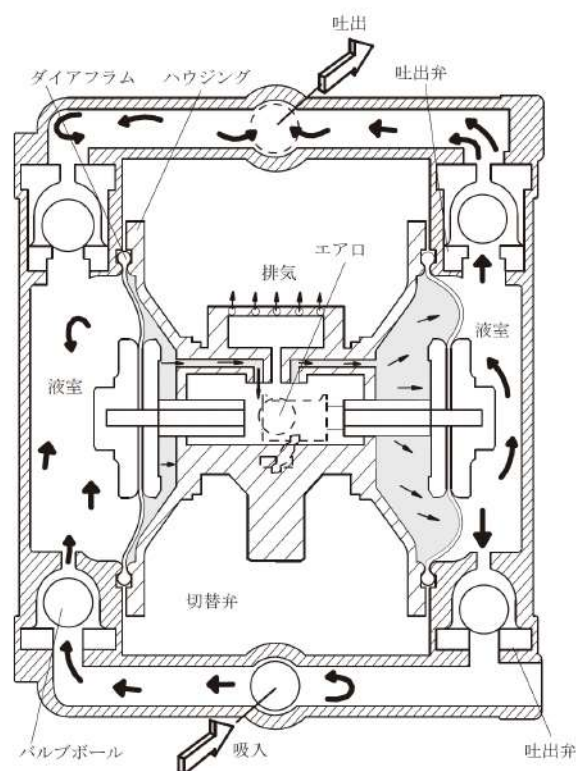
・ダイアフラムポンプは右のポンプ作動略図に示す様に、ダイアフラムの内側に送り込まれた圧縮エアが左右ダイアフラムの押し引きを生み、この力と切替弁のエア転換が結びついて作動します。

・液の移送は片方のエア室にエアが入るとダイアフラムは押され外側(液室)に吸い込んだ液を押し出す力が働きます。

・同時に下部の吸入弁は液圧で閉じ、上部にある吐出弁のボールは開放され、液は吐出口に運ばれます。

・ダイアフラムが引き寄せられた側では、液室は負圧となり、吸入弁のボールが引き上がり、液が流れ込みます。

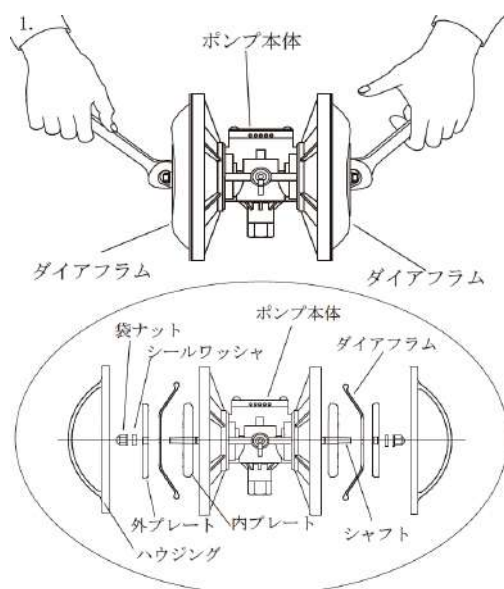
・このようなダイアフラムの押し引き作動により、液は液室内で左右交互の吸入・吐出を繰り返し移送されます。



ポンプの保守・点検方法

※お買い上げ製品と記載したイラストは異なる場合があります

■ ポンプの分解方法



ポンプ本体内部の分解は、左右の袋ナットにスパナをかけ一方を固定して回し袋ナットを外します。シャフトに固定された部品はプレートナット、ダイアフラムの順にとれて左図の様に開けます。この時、シャフトにパイプレンチ等はかけないで下さい。尚、左右のダイアフラムの向きは凹みがある方がポンプ本体側になります。プレートは内、外とありますが、いずれもR面がダイアフラムにあたります。

■ ポンプの保守・点検

- ・ダイアフラムは1日8時間稼動として想定した場合、6ヶ月に一度は点検して下さい。テフロンダイアフラムの場合、ゴム材質の寿命に比べ $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{3}$ 位と下がります。
- ・ダイアフラムの寿命は使用液の状況、ポンプの稼動方法などにより異なりますが磨耗性の高いスラリーあるいは鋭利な固形物が混入する場合、短期間で破損することがあります。
- ・ボールバルブ組はポンプの作動が続くことにより、ボール、バルブシートの磨耗が進むとともにバルブシート面との押さえが利かなくなり、吸入・吐出量が下がります。
- ・エアラインにオイル等が付いていない時はポンプの潤滑として始動時にオイル (SAE#10又は同等品) を数滴スポイト等でエア口に注入して下さい。
- ・ポンプの導入後、すぐに吐出、吸込みが鈍くなったり、作動停止等が起こった場合は、ポンプを配管から外し、空転試験を行い原因がポンプ本体の作動不良であるか、配管や据付の不具合かを判断して下さい。ポンプが空転不可だった場合は、弊社までお問い合わせ下さい。

⚠注意

- ・ポンプ部品の改造・代用は故障の原因となったり、改造の内容によっては強度を失い事故につながる場合があります。
- ・破損あるいは磨耗した部品は弊社の正規部品と交換するようにして下さい。

故障かな？と思ったら

■ 事象と原因

・ ポンプが作動しない場合

供給圧縮空気の不足、エアまたは液のラインの詰まり、切替バルブの故障や異物の詰まり、スライド面の油切れなどが原因として考えられます。点検や分解修理が必要です。

・ 作動はするが脈動が激しい場合

これはエアや液のラインの詰まり、バルブの異物詰まり、バルブやバルブシートの損傷、エアの吸入などが原因であり、点検が推奨されます。

・ 左右の動きが不規則な場合

ダイヤフラムの損傷、バルブの故障、バルブシートの摩耗などが原因であり、分解修理や点検が必要です。

・ ポンプは動くが正常に働かない場合

供給圧縮空気の問題、エアや液のラインの詰まり、液体の粘度の高さなどが考えられます。

・ 脈動が激しい場合や吐出口からエアが出る場合

ラインの詰まりやバルブ、ダイヤフラムの問題によるもので点検や部品の交換が必要です。

・ 作動スピードが速い場合や吸入口から液が戻る場合

ラインやバルブの問題、液体の粘度の問題が原因で、点検や交換が必要です。

・ 吐出口を閉じててもポンプが停止しない場合や排気音が異常な場合

バルブやダイヤフラム室の異物詰まり、ダイヤフラムの損傷などが原因で、点検や交換が推奨されます。

・ ポンプが作動しないが、衝撃を与えると動く場合

ダイヤフラムの損傷、スライド面の油切れなどが考えられ、分解修理や点検が必要です。

・ ガスケットが変色している場合

ガスケットの腐食が原因で、交換が必要です。

△ご不明な点がございましたら、恐れ入りますが弊社までお問い合わせください。

ポンプの仕様

■ 仕様

型式	K2-P, F			
送液 接続	吸入口径	RC(F) 1/4"	吐出量 (MAX)	10 L/min
	吐出口径	RC(F) 1/4"	吐出圧 (MAX)	0.25 MPa
エア 接続	供給口径	RC(F) 1/4"	押し込み 自吸	3.0m
	排気口径	マフラー付	粘度	1,000cp以下
主要部 材質	ハウジング		スラリー	5wt %以下
	マニホールド		使用温度	0°C~60°C
	バルブシート		使用エア圧力	0.1~0.25 MPa
	ダイヤフラム		ポンプ重量 (約) P	0.9 Kg
	ボールバルブ		ポンプ重量 (約) F	1.1 Kg

■ 備考

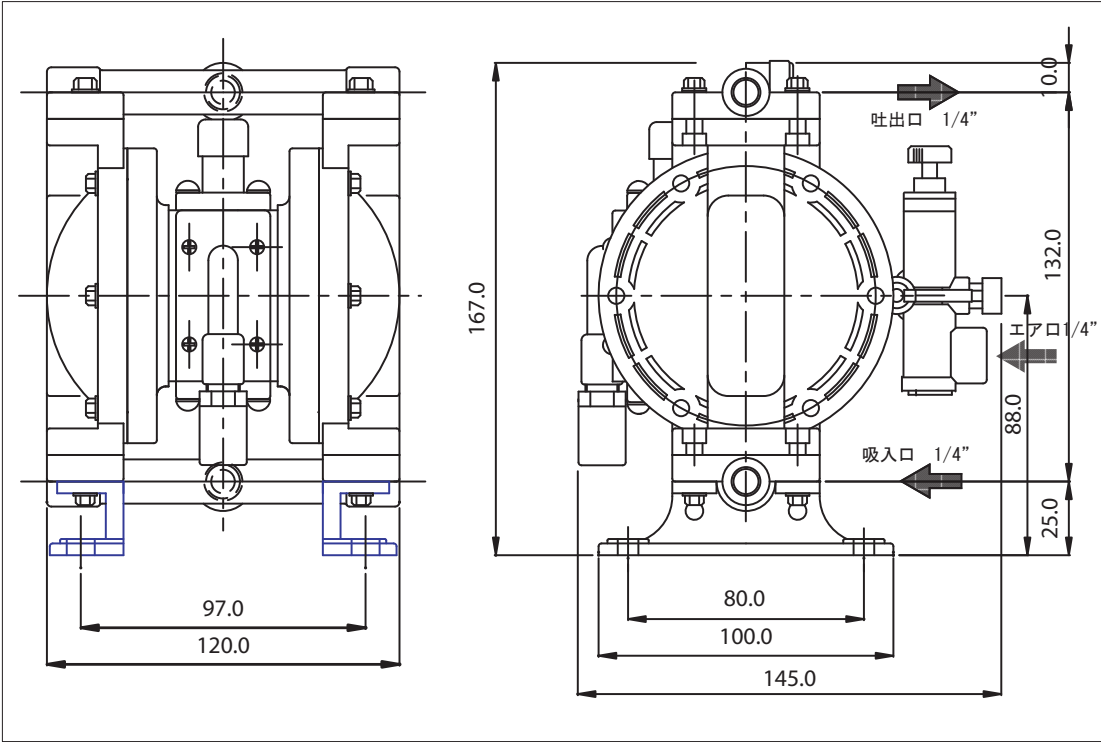
- ・上記、ポンプ仕様は K2 型シリーズ全機種取扱説明書として使用される為、数値が表示されていても機種によっては異なります。
- ・K2-○○○または最後に SP (特殊使用) 等がつく事があります。
部品の御注文の際は K2 型の後のアルファベットまで御確認下さい。
- ・上記、吐出量 (MAX)、吐出圧 (MAX)、及び押し込み・自吸はダイヤフラムがゴム系の数値となっています。ダイヤフラムがテフロンの場合、数値が低くなりますのでご留意下さい。
- ・尚、設計あるいは構造上で予告なく改良する事がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・K2 型は小型ポンプのため、エア供給圧は 0.1 ~ 0.5 MPa までとし、二次圧との差圧は 0.05 ~ 0.1 MPa 以上取るようにして下さい。

■ ダイヤフラムの材質について

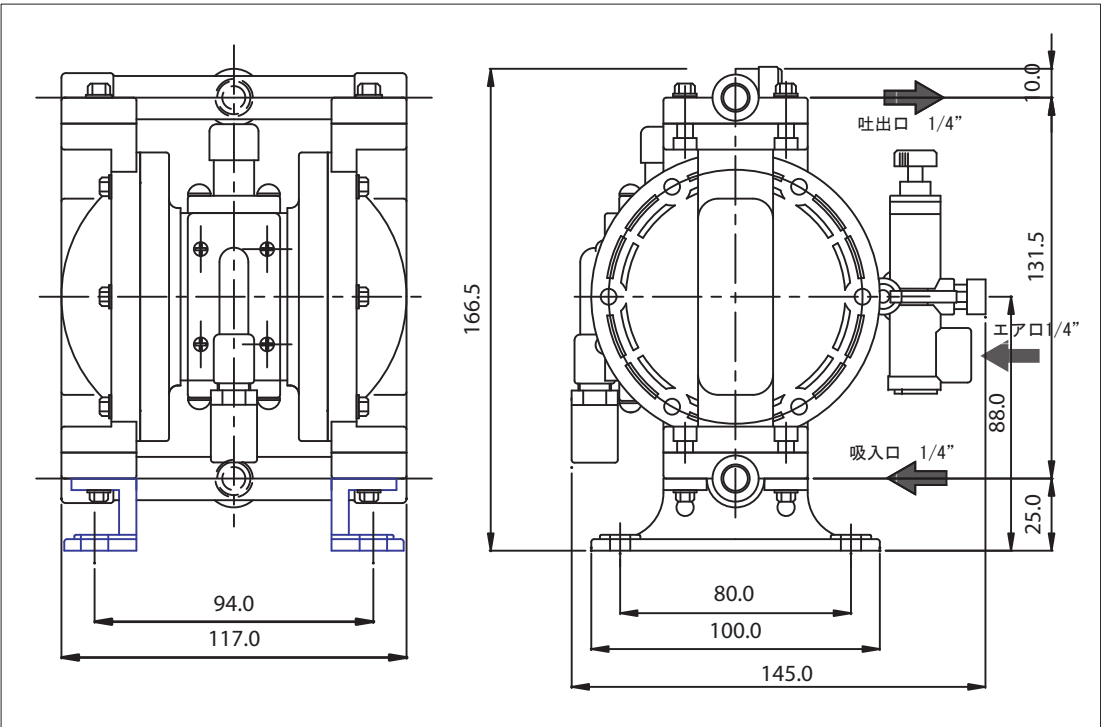
- ・**ハイトレル (R)**
ポリエステル系の弾性体で、特に弾性寿命が長く、耐研磨性に優れ高い引っ張り強度を持つ材質です。強い溶剤系については膨潤することがありますのであまり適しません。
- ・**テフロン (T)**
特に耐薬品性に優れ、酸・溶剤その他腐食性の強い液体に適しています。
ただし弾性寿命に劣りますので、上述の材質に耐えられない場合のみご使用下さい。

外形寸法図

■ K2-P



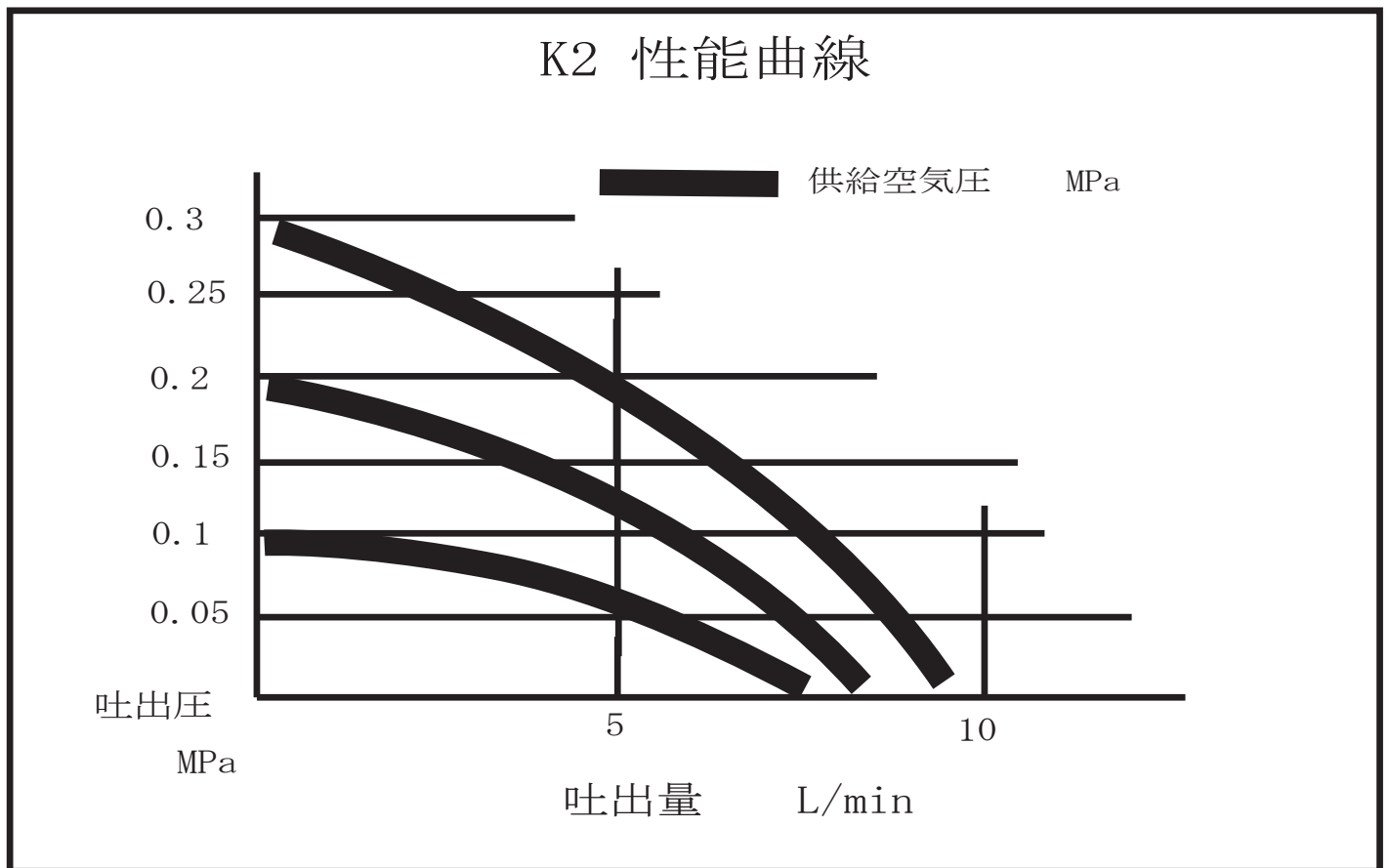
■ K2-F



⚠注意

- 1) 寸法は設計デザイン更新で変更する事がありますので、正確な寸法が必要な場合は必ず正式な図面をご請求下さい。
- 2) その他、御不明な点ございましたら遠慮なく弊社、技術部まで御連絡くださるようお願い致します。

性能曲線



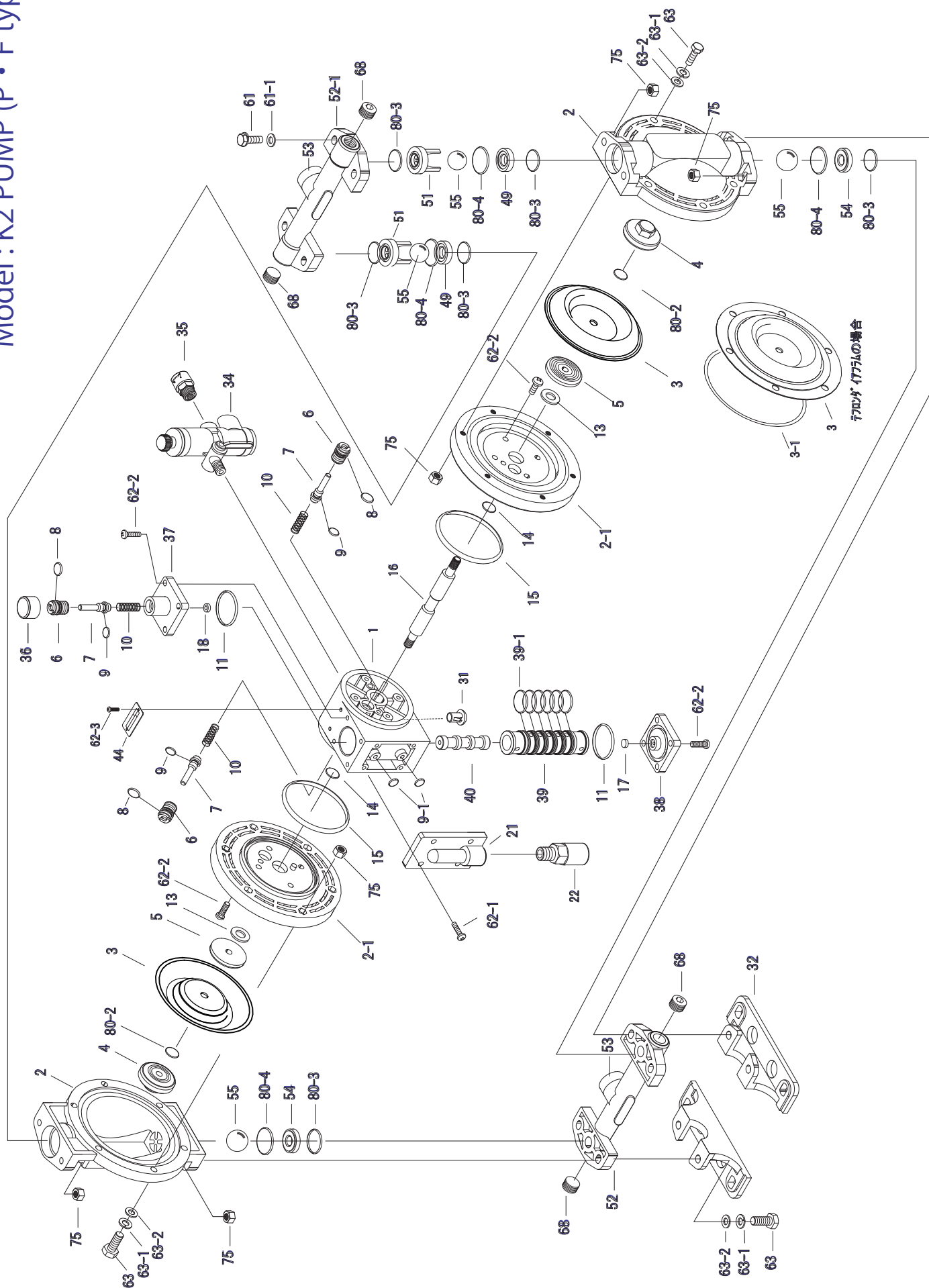
テスト条件：精水、吸水抵抗が0

テフロンダイアフラムの吐出量は上記の60%～70%位となります。

部品図・分解図（P・F型）

NO.	名称	個数	備考	NO.	名称	個数	備考
1	ポンプ本体	1		36	プッシュピンカバー	1	
2	ハウジング（外）	2		37	バルブカバーA	1	
2-1	エアハウジング	2		38	バルブカバーB	1	
3	ダイヤフラム	2		39	スリーブ	1	
3-1	Oリング	2		39-1	Oリング	6	IN18
4	プレートナット組	2		40	スプール	1	
5	プレート	2		44	ネームプレート	1	
6	プッシュピンボディ	2		49	アウトバルブシート	2	
7	プッシュピン	2		51	バルブストッパー	2	
8	Oリング	3	1×7	52	マニホールド	2	
9	Oリング	3	IN3	53	補強リング	2	
9-1	Oリング	2	N5	54	インバルブシート	2	
10	スプリング	3		55	バルブボール	4	
11	Oリング	2	P22	61	六角ボルト(SW 付)	4	M5×20
13	ワッシャ	2		61-1	平座金	4	M5
14	ミニYパッキング	2	内径 10	62-1	プラスチックネジ	4	M3×12
15	Oリング	2	IN53	62-2	プラスチックネジ	16	M4×12
16	シャフト	1		62-3	プラスチックネジ	2	
17	ゴム(穴付)	1		63	六角ボルト	16	M5×25
18	ゴム(穴付)	1		63-1	バネ座金(M5)	16	M5
21	ハイキボディ	1		63-2	平座金	16	M5
22	マフラー組	1		68	プラグ	4	
31	アンカークリップ	1		75	六角ナット	26	M5
32	スタンド	2		80-2	Oリング	2	P10
34	減圧弁組	1		80-3	Oリング	8	IN12.5
35	ゲージ	1		80-4	Oリング	2	IN18

Model : K2 PUMP (P・F type)



お取り扱い・製品についてご不明な点は

お買い上げの販売店・ダイナフローまでお問い合わせください。

ダイナフロー株式会社 ご連絡先

TEL:03-3787-1521

受付時間：平日 9:00-17:00

FAX:03-3784-6892

受付時間：24 時間受付